

(参考) 第1回検討会議における主なご意見等

| 議題  | 視点       | ご意見要旨   |
|---|----------|---|
| 本会議の進め方   | 検討の進め方   | ・ 県立高校がこれ以上少なくなっていくと通いにくい生徒も出てくる可能性があるため、慎重に議論しなければならない。  |
|   |          | ・ これまでたくさんのアンケートをとって分析しているので、生徒が何を求めているのかという観点から、多くの情報を使って検討ができればと思っている。  |
|   |          | ・ 平均的にダウンサイズしていくだけでは、子どもたちの幸せの総量も減る。それぞれの高校の魅力が高まり、子どもたちの幸せの総量が膨らむような再編であればよい。                                      |
|   |          | ・ 中卒予定者数の推移を見ると、私が高校生だった頃がピークになっており、自分の経験が必ずしも、現在に適用できるものではないと思っている。よりよい学校環境を構築できるように一緒に考えていきたい。                    |
|   |          | ・ 報告書に書かれている危機意識からすると、これからのビジョンばかり話をしていても時間がないと感じる。いかに行動を起こしていくか、今はそういう段階にきているのではないか。                               |
|   |          | ・ 数合わせではなく、各高校のあり方や特色、スクール・ポリシー、職業教育を含めた役割といったことを踏まえた上で、適正なあり方や規模の両方を幅広い視点から、深く洞察していく必要がある。                         |
|   | 学校規模・基準  | ・ 教育目的や教育目標について再度確認し、それを達成するための効果的な教育方法にはどのようなものがあるか、また、それぞれの教育方法や扱う教材に関する適正規模のクラスについて検討できればよい。                     |
|   |          | ・ 現在、勤務する中学校が3学級となり、部活動の運営上も大変課題が多い。少なくとも4学級は必要ではないかと実感している。  |
|   | 県立高校のあり方 | ・ 小学校での勤務経験から、小中学校におけるキャリア教育は本当に大切なことだと思った。小学校から中学校、中学校から高校、高校から大学へという進路があるが、自分の進路を実現できる受け皿が大切。どういう学科が大切なのか聞かせてほしい。 |
|   |          | ・ 報告書に「高校生ファーストで考えるべきではないか」という意見が記されていたが、そういうことを念頭に置きながら、今後10年、20年先の富山県の教育がどうあればよいかを議論していきたい。                       |
| ・ 子ども食堂に来る子どもが、同じ年ごろの子どもの姿を見て学習していく光景がある。教えることは必要だが、見て経験することが大変重要だと思う。                      |          |   |
| ・ 自分の夢に向かって力強く、たくましく成長していける学生生活、そして社会に出てからコミュニケーションを上手にとっていけるように、学生生活を通して養っていける教育をしていただきたい。 |          |   |
| ・ コロナ禍で得たものの一つにオンライン授業がある。せっかく得たのだから学校を越えて利用するといった検討などもできればよい。                              |          |   |

(参考) 第2回検討会議における主なご意見等

| 議題                  | 視点   | ご意見要旨   |
|---------------------|--|---|
| 県立高校再編に関する学校規模や基準など | 検討の進め方   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の規模・基準も大切だが、それを検討していく上で、学科やコースの見直しと併せて検討する必要がある。</li> </ul>  |
|                     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富山県は、県立高校と私立高校の割合を定めた上で募集定員を決めているので、他県のように定員割れを基準とするような一律の基準は難しいだろう。一つの基準で全て決めるのではなく、いろいろな観点を持つ必要がある。</li> </ul> |
|                     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の先生方、生徒や保護者、経済界や学術界のそれぞれの立場の意見のバランスをとらなければならない。人口減少という抗えない事実がある中で、どう三方よしを高めていくかということが方針ではないか。</li> </ul>       |
|                     | 学校規模・基準  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級数が減ると、教員数が減る。質の高い教育を実施するためには、1学年あたり5～6学級は必要ではないか。</li> </ul>   |
|                     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の学習環境の維持や部活動の活気という観点から、4～5学級規模が望ましい。ただし、地理的な条件なども考慮する必要がある。</li> </ul>   |
|                     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校教育の質のレベルを下げるわけにはいかない。そのためには、学校規模、生徒数あるいは学級数が大変重要であり、それが低下することは極力避けるべき。</li> </ul>                              |
|                     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、学級規模は1学級40人として計算されている。いつ法律が変わるかわからないが、現状は変わることはないと思うので、前回と同じような基準でよい。ただし、登校にかかる時間等は考慮する必要がある。</li> </ul>      |
|                     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4学級くらいが一つの目安で、地域の実情や校風によって、3学級、2学級があるのかと思う。</li> </ul>   |
|                     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が30%減るということに改めて危機感を覚えている。全国や県内の状況を見ると4学級くらいが妥当なのかと思う。</li> </ul>   |
|                     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4～5学級が望ましいというのもよくわかるが、いろいろな地域の事情なども考えてほしい。</li> </ul>  |
| 県立高校のあり方            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小規模校では、経験が少なくなることがある。長崎県のキャンパス校のように、小規模校が大規模校とつながる方法もあるのではないか。</li> </ul> |   |
|                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が選んだ学校で何ができるか、将来どんな進路を選択できるかが大切。高校では、そういった指導をしてもらいたい。</li> </ul>        |   |

| 議題         | 視点       | ご意見要旨  |
|------------|----------|--|
| 学科・コースの見直し | 検討の進め方   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業系の学科において、ねらいとする知識や技能、社会から求められている能力や技術といった力も変化してきているのではないか。今の形にあったような学科の組み替えがあってもよい。</li> </ul>   |
|            |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」では、職業科の学科の見直しに関して、「生徒の希望や産業界のニーズとバランス等を考える」となっている。これはまさしく社会の変化に対応して考えなければならないということだと思うので、この形で進められるとよい。</li> </ul>     |
|            | 県立高校のあり方 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・ポリシーなど、県立高校のそれぞれの方針がますます大事になってくる。規模や大学進学率の競争ではなく、理念やビジョンの競争で高校を選ぶことが大事。</li> </ul>  |
|            |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業科と普通科が一つの学校になり、共通の授業科目をオープン化し、お互いに乗り入れながらやっていくと特色も出てくるのではないか。そういった高校をつくっていくことも一つではないか。</li> </ul>  |
|            |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の時に、誇りを持てる学科であり、誇りを持てる学習だということを理解してもらえる教育が必要だろう。それが高校を選ぶ材料にもなる。</li> </ul>  |
|            | 各学科      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・富山県にとっては、農業、水産はとても大切。もう一つの特徴は工業県ということ。こういう分野で全国からうらやましく思われるような高校のあり方をデザインするべき。一つの提案として、学科名、学校名まで変えてはどうか。</li> </ul>                              |
|            |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校3年生が、半日ほど農業高校の取組みを体験することがあった。そういった中高連携の取組みも進め、高校のよさを中学生にアピールしてもらい、進路選択の一つになるとよい。</li> </ul>   |
|            |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の先生方が進路指導をしていく中で、例えば、工業科を志望している生徒には、工業科の中のどの学科にするかということになる。視察報告にあったように、入る時は大枠で入り、そのあとにコースを選択するような高校があれば、進路指導面からもよいし、子どもたちの選択肢も広がる。</li> </ul> |
|            |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・親の立場としては、「とりあえず普通科に」とアドバイスしてしまう気持ちもある。工業系も特色をつけるのであれば、必修化された「情報」が特色ではないか。県立大学では、データサイエンスに力を入れているので、高大連携も図れて非常に良い特色が出ると思う。</li> </ul>             |
|            |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願状況を見ると、総合学科が毎年安定した状況になっている。この人気のある要因を分析していくことも必要になってくる。</li> </ul>   |

(参考) 第3回検討会議における主なご意見等

| 議題  | 視点      | ご意見要旨   |
|---|---------|---|
| 県立高校再編に関する学校規模や基準など   | 学校規模・基準 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が学びたい、学んでよかったと思えるためには一定水準の教育の質が必要。学校関係者や全国調査の結果では、4から8学級がよいとされている。現在の基準が適用されるのがよい。例外規定もあり弾力的に運用できるようになっている。</li> </ul>       |
|   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>規模だけでなく、学科やコースなど県全体のバランスを見極め学校を配置することが必要。令和2年度の基準を前提とし、必要があれば修正を加えるような捉え方で進めていけばよい。また、これまで通り規模の小さい学校から検討することが必要だろう。</li> </ul> |
|   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで様々議論され、令和2年度の基準が設定されてきた。教員数の確保や生徒が部活動などで仲間たちとともに過ごしたいという気持ちなどを考えての基準であったと思うので、この基準がよい。</li> </ul>                          |
|   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで通りの基準または、引き上げかと思う。総合的な探究の時間では、生徒が自ら課題を見つけて探究することが求められている。このような多様な学びに応えていくためには、それなりの教員や学校規模が必要。</li> </ul>                  |
|   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校で過ごす時間、同級生や先輩後輩と過ごす時間はとても大切であり、そのためには4学級以上が必要ではないか。学校の歴史や地域性といった話もあるが、数で明確に示すことは大切。規模の小さい学校からというのは、誰もが異を唱えない点だろう。</li> </ul> |
|   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>教育の水準を考えると4学級は最低でも必要。基準を引き上げて幅広く検討する方がよい。その中で、小さい学校を全て統合するのではなく、地域の実情に応じた再編も必要になってくる。</li> </ul>                               |
|   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>基準を引き上げる必要がある。生徒にとって質の高い教育には、教員の数が必要。また、ある程度の規模のクラス数があることによって部活動等を含め効果がある。ある程度平等性を確保するためには、規模を少し大きめに取っておくのが近道だろう。</li> </ul>   |
|   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>10年後、15年後を想定して検討する必要がある。基準を引き上げることで志願状況や欠員状況も十分考慮できる。そういう柔軟性に富んだ考え方を持つべき。</li> </ul>   |
|   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>基準を引き上げれば、対象校が限定的にならずに幅広い中から決まるのでよい。</li> </ul>  |
|   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>基準を引き下げ3学級以下の学校ができてもいいのではないかと。小規模校の良さもあれば、規模が大きい良さもある。数の規模で全て判断するというのは違うと思う。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>基準を設けるのはどれも悩ましいが、志願状況や欠員状況を基準にすることについては慎重な検討が必要ではないか。定員割れが起こっていても、その学校・学科がなくなると、本当に困ることが起きてくるのではないかと思う。</li> </ul> |         |   |

| 議題  | 視点       | ご意見要旨  |
|---|----------|--|
| 学科・コースの見直し  | 県立高校のあり方 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校、高校の先生方は、生徒が進路選択する時に「この学校のこの学科に行けば、社会とどう繋がることができるか」という社会との接点を伝えなくてはならない。ビジョンが見えれば子どもたちは目を輝かせるだろう。</li> </ul>  |
|   | 各学科      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業科や水産科では、関連する就職や進学者の割合が低い。「このカリキュラムのままでいいのか」までを含めて検討していかなければならない。</li> </ul>  |
|   |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業系では、工業デザインなど女性が入ってもらえるようになるとよい。地場産業においてデザインで付加価値を上げていくことを、県内でできるようにしていくことは人材育成の意味においても価値がある。また、食料自給率をどう高めるかという大きな課題がある。重要な産業を伸ばしていくという意味で農業系に力を入れ、先進的な技術を学べるようにする必要がある。</li> </ul> |
|   |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業科に細かい、いろいろな科があっても「この先には何が待っているのだろう」とよくわからないところがある。一括募集や学科の名称変更があれば「行ってみようか」という気持ちになるのではないか。</li> </ul>   |
|   |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報系のことを網羅する基礎学習ができていないと、卒業後に様々な端末に対応できる人材が育たない。情報系の普通科や工業科の中の情報系が増えるとよい。</li> </ul>  |
|   | 普職割合     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校における職業科の役割は変わってきているのではないか。そうであれば、定員の一部を普通科に変更するなど、思い切ったことも必要ではないか。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科の割合が低いので、普通科の増加や、職業科の減少をすることで、その割合を正すことが必要。ただし、職業科については、動物を扱う農業科が県内では中央農業高校だけであるというような強みを生かしていく必要がある。単に職業科を削減するのではなく、総合学科や普通科コースで学科の内容をつなげることも大切。</li> </ul> |          |  |
| 様々なタイプの学校・学科等   | 全国募集     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・南砺平高校の郷土芸能部は素晴らしい成績を収めているし、スキー部はオリンピック選手を輩出している。寄宿舍もあるので前向きに検討してほしい。</li> </ul>  |
|   |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土芸能部の活動を拝見したが、本当にプロフェッショナルで素晴らしかった。情報発信によって全国の生徒が見に来てくれるといった可能性があればよい。</li> </ul>   |
|   |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舍では週末や長期休業期間に対応できないならば下宿という方法もあると思う。</li> </ul>  |
|   | 国際バカロレア  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・莫大な人材投資が必要であり、昨今の国際情勢を考えるとグローバル化ばかりが魅力的というわけではない。慎重に議論すべきではないか。</li> </ul>   |
|   |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入することで制約条件が多くなるのではないか。学校教育の中で、他国の文化に触れる機会を増やせばよい。語学に加え、世界史や地理など教科横断的な授業を行い、富山県をグローバル化教育の先進県と位置付けられるような特色ある取組みに挑戦してはどうか。</li> </ul>  |
|   |          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な教員や施設設備の充実、多額の予算等を考えると県立高校では設置が難しいのではないか。グローバルコースのようなところで、英会話力を高めながら探究活動に力を入れる方が適しているのではないか。</li> </ul>  |

(参考) 第4回検討会議における主なご意見等

| 議題                      | 視点                | ご意見要旨  |
|-------------------------|-------------------|--|
| 県立高校再編に関する<br>学校規模や基準など | 県立高校の<br>目指す姿(素案) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに経験のないほど子どもの数が圧倒的に減っていく中で県立高校の再編を議論するには、しっかりしたビジョンが必要。今回示されたビジョンは、子どもを中心とした視点に立つということが明確になっており、よい方向になってきたのではないかとよい。</li> </ul>  |
|                         |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校、大規模校それぞれの良さがある。これが、子どもたちの選択肢になっていくとよい。</li> </ul>   |
|                         |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・再編検討の方向性に示された再編統合や学科改編等を一体的に検討していくという原案は、これまで議論を重ねてきたことが網羅されている。小規模校、中規模校、大規模校の役割と併せて様々なタイプの学校等についても検討を深めていけるとよい。</li> </ul>   |
|                         |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模、中規模、大規模が偏りなく、子どもたちが通いやすいものになるとよい。</li> </ul>   |
|                         |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化が進む中、高校再編は必要だと思うが、地域において子どもたちの教育環境を確保し、子どもたちが本当に自分でやりたいことができる学校へ行けるようにしてほしい。</li> </ul>   |
|                         |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質を向上させるためには、1校当たりの教員数と生徒数の確保が重要。再編検討の方向性は、現行の教員配置等の規則制度において、生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質の向上を図ることを目指したものと見える。</li> </ul>   |
| 学科・コースの見直し              | 県立高校のあり方          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題に関するプロジェクト学習において、子どもたちは学習を経るごとにテーマを見つけ解決につなげる学びを深めている。より色々な学びに対応できるような形になればよいが、教員数や教員の多様な専門性が必要になるなどの課題もある。</li> </ul>   |
|                         |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達するデジタル技術の活用により、学校間で連携し、授業の同時展開や、グループディスカッションをして何かをつくりあげていくようなプログラムができるのではないかとよい。</li> </ul>  |
|                         |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業科でどのような力が身につくのか、入学してみないと分からないということが、子どもたちにとっては不安であり、最初から選ぶことができない生徒が増えている。子どもたちが自分の好きなところで学び、力を伸ばすことができる多様な学科が県全体にバランスよく配置されるとよい。</li> </ul>   |
|                         |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の子どもたちは、決められた時間の中で早急に、進路を考え選択しているように感じた。もう少しゆっくりと考える時間を与えることはできないか。</li> </ul>  |
|                         | 魅力発信              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生のうちから方向性を持って進路選択をすることが大切。今後、さらに高校の特色が出てくるならば、中学生にしっかりと伝え、進路選択につなげていくことが必要。</li> <li>・高校生と地域や企業等との連携活動は、中学生やその保護者が高校生の活動に直に触れるよい機会。各市町村に色々なイベントがあるが、各地区の高校とうまく連携できれば、魅力発信につながるのではないかとよい。小中高が連携し、市町村の地域企業も連携したような実のある活動を組み込んでいくことも一つの手段。</li> </ul> |

| 議題            | 視点            | ご意見要旨  |
|---------------|---------------|--|
| 学科・コースの見直し    | 各学科           | <ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンス系の学科は配置、強化されていくべき。海外では、ICTという産業分類がなく、当たり前のこととして認識されている。どの学科でもICTやデータサイエンスといったものを履修できるような環境をつくっていくべき。</li> </ul>                                       |
|               |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化の進展と社会の変化により、高校教育にデータサイエンスを取り入れる重要性が増している。文系理系に関わらず応用されるデータサイエンスは、生徒たちの分析力や問題解決力を育成する。</li> </ul>  |
|               |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会のニーズに鑑みるとデータサイエンスコースやグローバルコースは、まさに生徒が学びたいと思え、高校卒業後の進学や実社会で生かせるもの。しかし、設置する場合は、コースの特色をしっかりと考え、PRしていくことも大切。また、職業科の中で、普通科コースへの変更が可能かどうかという視点での検討も必要。</li> </ul> |
|               |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>職業科の中には、進学者が生徒の7割～8割となっている学科もある。普通科の中のコースとして、特色ある教育内容を残していく方策もあるのではないか。</li> </ul>  |
| 様々なタイプの学校・学科等 | 中高一貫教育校       | <ul style="list-style-type: none"> <li>中高一貫教育校などで特色を持たせるのはよい。</li> </ul>   |
|               |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>都会ではメリットがあるようだが、富山県では少し事情が違うのではないかと考えていた。しかし、子どもたちの選択肢を広げるためには検討する価値はある。</li> </ul>   |
|               |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>中高一貫教育校にはメリットとデメリットがあると思う。もし、設置するのであれば富山県ならではの魅力が詰まったコンセプトを考えていただきたい。</li> </ul>  |
|               | 外国人生徒に係る特別入学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>高校に行きたいと思う外国籍の生徒には、その機会を保障してほしい。県立でも私立でもよいので、その仕組みを県でつくっていただきたい。</li> </ul>   |
|               |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>富山県として外国籍にルーツを持つ生徒をどう育てるかの対応は必要。私学では受入れの限界があり、人的、財政的な支援を求めたい。その支援がないのであれば、公立に枠を設けるべき。</li> </ul>  |
|               |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人生徒を受け入れる場合の教育環境において、特別な教育課程の編成や人員の確保、その他の支援体制の整備などが十分でない限りは、入学した生徒に十分な教育を行うことができないことが課題としてある。</li> </ul>   |
|               |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>母語で対応しすぎると、日本語能力の向上は期待できない。特別な対応を過度に行うのではなく、丁寧ながらも効果的な方法での支援が望ましい。</li> </ul>   |